

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	国語総合	学 年	1	類 型	
単位数	5	教科書	改訂版 高等学校国語総合（数研出版）				
副教材	[現代文・古典]新訂総合国語便覧（第一学習社） [現代文] 大学入試に出た核心漢字2500＋語彙1000（尚文出版） [古典] 体系古典文法（数研出版）・漢文必携（尚文出版）						

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	【現代文編】 山崎正和「水の東西」	・「水」をめぐる日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	☐ ☐ ☐
	黒崎政男「ネットが崩す 公私の境」	・メディアの変化とインターネットの現況をとらえ、今後予想される社会の危惧について考える。	☐ ☐ ☐
	芥川龍之介「羅生門」	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。	☐ ☐ ☐
	鈴木孝夫「ものとことば」	・抽象的見解とその具体例からなる文章展開を学び、問題提起と発展的考察の関係を読み解く。	☐ ☐ ☐
	茨木のり子「六月」	・詩に凝らされている工夫や表現技法をとらえ、詩を鑑賞する。	☐ ☐ ☐
	中原中也「サーカス」		
	【古典編】 古文 宇治拾遺物語	・古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを理解する。	☐ ☐ ☐
	児のそら寝	・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	☐ ☐ ☐
	絵仏師良秀		
	漢文 入門一・入門二 漁夫の利・矛盾	・訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。	☐ ☐ ☐
2 学期	古文 徒然草	・格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。	☐ ☐ ☐
	つれづれなるままに	・作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。	☐ ☐ ☐
	神無月のこと	・随筆に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	☐ ☐ ☐
	ある人、弓射ることを習ふに		
	花は盛りに		
	【現代文編】 内山節	・対比的に述べられる概念をとらえながら、文章の展開と構造を踏まえ、主要な論点が何か理解する。	☐ ☐ ☐
	「時間と自由の関係について」	・過去の経験が現在の知覚もたらす影響を理解し、言葉の限界性を認識させる。	☐ ☐ ☐
	川上未映子「匂いは、いつも 言葉の奥の何かを」	・日本とヨーロッパの文化の特徴を比較し、日本の内外の区別の仕方の特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
	高階秀爾「「間」の感覚」		
	太宰治「富岳百景」	・作品世界を客観的にとらえ、論理的に説明できる力を身につける。	☐ ☐ ☐
	□表現編	・構成に工夫をして、明確な根拠に基づいた具体的で説得力のある意見文を書く。	☐ ☐ ☐
	表現二 意見文		☐ ☐ ☐

2 学 期	【古典編】 漢文 狐借虎威 朝三暮四	・ 故事成語の成り立ちを学び、理解を踏まえる。	☐ ☐ ☐
	古文 伊勢物語 芥川 東下り 筒井筒	・ 物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。	☐ ☐ ☐
	漢文 管鮑之交 晏子之御	・ 春秋時代の時代背景を学習し、今後の漢文学習に必要な背景知識を養わせる。	☐ ☐ ☐
	古文 竹取物語 なよ竹のかぐや姫	・ 想像力を働かせながら、物語の世界を読み味わう。	☐ ☐ ☐
	古文 枕草子 春はあけぼの 中納言参り給ひて 和歌 万葉集・古今・新古今	・ 作者の表現の仕方を捉え、随筆を読み味わう。 ・ 随筆に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・ 五七調のリズムに慣れるとともに、和歌の修辞や表現を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	【現代文編】 短歌・俳句	・ 短歌、俳句について、それぞれの形式やリズム、表現方法に注意して読む。	☐ ☐ ☐
	志賀直哉「城の崎にて」	・ 小動物の生と死をめぐる出来事が主人公の心情に及ぼした影響を、表現に即して読み取る。	☐ ☐ ☐
	鷲田清一「他者を理解すること ということ」	・ 「他者を理解すること」はできないと認識し、それでも「わかろうとする姿勢」こそが「他者の理解」なのだという筆者の論を正しく読み取る	☐ ☐ ☐
	【古典編】 古文 土佐日記 門出 帰京 古文 平家物語 祇園精舎	・ 帰京した時の自邸の様子と貫之の心情を理解する。 ・ 「祇園精舎」における「諸行無常」「盛者必衰」の思想をおさえ、『平家物語』の内容について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	漢文 李白「静夜思」 王維「送元二使安西」 王翰「涼州詞」 杜甫「月夜」 白居易「八月十五日夜、禁中独 直对月憶元九」 漢文 思想 論語	・ 漢詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。 ・ 描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの詩や文を読み味わう。 ・ 諸子百家について理解する。 ・ 選択形、比較形、仮定形について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
学習方法		〔評論・小説〕 評論・小説の着目箇所を意識して重要だと思う箇所に線を引いたり印をつけたりしながら読む。また、意見の交流を通して新たな視点を獲得したり読みを深めたりする。 〔古文・漢文〕 音読を繰り返して古典のリズムに慣れる。予習として、本文をノートに書写し、辞典・文法書等を用いて現代語訳に取り組む。授業のまとめとして学習の手引きに取り組む。 〔言語活動〕 話すこと・聞くこと・書くことに関する方法を知り、それを用いて課題に取り組む。また、他の人の意見を知ることによって、自らのものの見方・考え方を広げたり深めたりする。	
評価方法		提出物や小テストによる評価 2 割、考査による評価 8 割で総合的に評価し、最終的に 100 点法の評点とともに 5 段階で評価を行う。	

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	現代社会	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	「高等学校 改訂版 現代社会」(第一学習社)				
副教材	「新編テーマ別資料 現代社会 2021」(とうほう) 「改訂版 現代社会ノート」(第一学習社)						

学習目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	第1編 私たちの生きる社会	地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命倫理、高度情報化 民主政治における個人と国家、基本的人権と法の支配、世界のおもな政治体制	☐ ☐ ☐
	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方		
	第1章 現代に生きる青年	青年期の意義と自己形成の課題	☐ ☐ ☐
	第2章 個人の尊重と法の支配	日本国憲法の基本原理、平和主義と安全保障	☐ ☐ ☐
2 学期	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	基本的人権の保障と新しい人権、国民主権と議会制民主主義、 内閣と行政の民主化、裁判所と人権保障・地方自治、世論形成	☐ ☐ ☐
	第4章 国際政治の動向と日本の役割	国家主権と国際法、国際連合の役割、核兵器の廃絶と国際平和、 地域紛争と人種・民族問題	☐ ☐ ☐
	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	経済社会と経済体制、経済主体と企業の活動、市場経済のしくみ、 経済成長と景気変動、政府の経済的役割と租税の意義、	☐ ☐ ☐
	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	戦後の日本経済の動き、産業構造の変化、雇用と労働問題公害 の防止と環境保全、消費者保護と契約、社会保障	☐ ☐ ☐
3 学期	第6章 国際経済の動向と日本の役割	国際収支、円高・円安、経済統合、南北問題、国際協調	☐ ☐ ☐
	第7章 現代に生きる倫理	日本思想、西洋思想	☐ ☐ ☐
	第3編 とともに生きる社会をめざして	税と社会、エネルギー問題 人口問題	☐ ☐ ☐

学習方法	①日頃から新聞やニュース等を見ることで、社会的な出来事に興味を持つ。 ②出来事の原因と結果、その後の影響を関連付けて理解する。
------	--

評価方法	考査評価7～8割、平常評価2～3割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点とともに5段階で評価を行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	学 年	1	類 型	高進
単位数	3＋1	教科書	Mathematics 数学Ⅰ改訂版（啓林館）、 Mathematics 数学Ⅱ改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅰ＋A（啓林館）、アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 数と式 式の計算	式を多面的に見たり処理したりすることができる。	☐ ☐ ☐
	実数	絶対値や無理数の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	1次不等式	1次不等式の解を求められる。	☐ ☐ ☐
	第2章 2次関数 2次関数とグラフ	平方完成することで頂点を求め、グラフがかけられる。	☐ ☐ ☐
	2次関数の値の変化	グラフを活用して、最大値、最小値を求められる。	☐ ☐ ☐
	2次方程式と2次不等式	数量の関係を2次不等式で表し、解を求められる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	第4章 集合と命題	集合と命題の基本的な概念を理解する。	☐ ☐ ☐
	第3章 図形と計量 三角比	鋭角の三角比の意味を理解し、値が求められる。	☐ ☐ ☐
	三角形への応用	正弦定理、余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求められる。	☐ ☐ ☐
	第5章 データの分析	データを整理・分析し傾向を把握することができる。	☐ ☐ ☐
	第1章 式と証明 式と計算	整式の除法、分数式の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	等式・不等式の証明	等式や不等式が成り立つことを基本的な性質などを用いて証明することができる。	☐ ☐ ☐
	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	高次方程式	高次方程式の解を因数定理などを用いて求められる。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。
評価方法	考查評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点および5段階で評価する。平常評価は課題の提出状況、小テスト、授業への取り組み等で行う。

教 科	数学	科 目	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	学 年	1	類 型	中進
単位数	2＋2	教科書	Mathematics 数学Ⅰ改訂版（啓林館）、 Mathematics 数学Ⅱ改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅰ＋A（啓林館）、アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 式と証明 式と計算	整式の除法、分数式の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	等式・不等式の証明	等式や不等式を証明することができる。	☐ ☐ ☐
	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解	複素数の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	高次方程式	高次方程式の解を因数定理などを用いて求められる。	☐ ☐ ☐
	第3章 図形と方程式 点と直線	線分の内分点、外分点が求められる。	☐ ☐ ☐
		与えられた条件を満たす直線の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	円	与えられた条件を満たす円の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
	軌跡と領域	円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	☐ ☐ ☐
	第4章 三角関数 三角関数	与えられた条件を満たす点の軌跡領域を求められる。	☐ ☐ ☐
		弧度法で表された角の三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
		三角関数の相互関係を理解し、利用できる。	☐ ☐ ☐
		加法定理を利用して、三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	加法定理	三角関数の合成を理解する。	☐ ☐ ☐
	第5章 指数関数と対数 関数	指数法則を利用して計算ができる。	☐ ☐ ☐
	指数関数	指数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐
	対数関数	対数の性質に基づいた値の計算ができる。	☐ ☐ ☐
		対数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐
	第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数	導関数を利用して、接線を求められる。	☐ ☐ ☐
	関数の値の変化	不定積分・定積分の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	積分法	直線や曲線で囲まれた部分の面積が求められる。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。
評価方法	考査評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点および5段階で評価する。平常評価は課題の提出状況、小テスト、授業への取り組み等で行う。

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学 A	学 年	1	類 型	全クラス
単位数	2	教科書	Mathematics 数学A 改訂版（啓林館）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学 I + A（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 場合の数と確率 場合の数 確率	順列・組合せを理解し、計算できる。 場合の数を利用して確率を求められる。 独立な試行の意味を理解し、確率を求められる。 条件付き確率を理解し、確率を求められる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第3章 整数の性質 約数と倍数 ユークリッドの互除法 整数の性質の活用	素因数分解を用いて公約数や公倍数を求められる。 ユークリッドの互除法の仕組みを理解する。 1次不定方程式の整数解を求められる。 2進法の仕組みや、分数が有限小数や無限小数で表される仕組みを理解し、事象の考察に活用できるようになる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第2章 図形の性質 平面図形 空間図形	三角形や円の性質を理解し、活用できるようになる。 空間における直線や平面の位置関係やなす角について、また多面体の性質を理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。
------	--

評価方法	考査評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点および5段階で評価する。平常評価は課題の提出状況、小テスト、授業への取り組み等で行う。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	物理基礎	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	考える物理基礎（啓林館）				
副教材	物理基礎研究ノート（博洋社）、アクセスノート物理基礎（実教出版）						

学習目標	物理的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、探究する能力や態度を高めるとともに、日常生活との関わりについて考察し、自然に対する見方や考え方を培い、論理的思考力・課題解決能力を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1部 物体の運動とエネルギー ① 物体の運動	◎速さと速度，等速直線運動，合成速度，相対速度 加速度，等加速度直線運動，鉛直投射	☐ ☐ ☐
	② 力と運動	◎力の合成・分解，力のつりあい，運動の法則， 運動方程式，摩擦力，浮力，空気の抵抗	☐ ☐ ☐
2 学 期	③ 仕事とエネルギー	◎仕事，仕事率，仕事の原理，エネルギー， 力学的エネルギー保存則	☐ ☐ ☐
	第2部 熱 ① 熱とエネルギー	◎熱容量，比熱，熱量の保存，熱と仕事，熱機関	☐ ☐ ☐
	第3部 波 ① 波の性質	◎波の基本式，縦波・横波，波の重ね合わせ，反射	☐ ☐ ☐
3 学 期	② 音	◎音の性質，共振・共鳴・うなり，弦・気柱の振動	☐ ☐ ☐
	第4部 電気と磁気 ① 静電気と電流	◎静電気，電気回路，オームの法則，電力と電力量	☐ ☐ ☐
	② 交流と電磁波	◎電流と磁場，電磁誘導，交流の発生，電磁波	☐ ☐ ☐

学習方法	主体的に授業に参加し、物理的な事物・現象や概念、法則に対して、具体的なイメージを持ち、ただ暗記するのではなく、なぜそうなるのか、その理由や根拠について考えた上で理解するように心がける。物理基礎の理解を深めるには、復習と問題演習は不可欠である。単元ごとに復習を行い、問題演習では、じっくりと考え、紙に図やグラフを書き、立式して、解答を導く。自分で解けるようになるまで、何度も問題演習に取り組もう。
------	---

評価方法	考查評価7～8割（定期考查・課題考查），平常点評価2～3割（課題，提出物，授業態度等）で総合的に評価し，100点満点で評点を算出するとともに5段階で評定を決定する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物基礎	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」				
副教材	浜島書店ニューステージ生物図表、数研出版リードα生物基礎						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物に関わる様々な現象に対して興味関心を高め理解するとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸	・生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。 ・酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 遺伝子と そのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報を担う物質であるDNAについて、その構造および遺伝情報は塩基配列にあることを理解する。 ・転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について理解する。 ・遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 生物の体内環境 1. 体内環境としての体液 2. 腎臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫	・動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境であり、体内環境が一定に保たれていることを理解する。 ・体内の調節のしくみについて、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫を中心に理解する。 ・私たち自身のからだにかかわる内容について身近な話題を取り上げることで理解を深める。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第4章 植生の多様性と分布 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム	・植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。 ・地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。 この2点を到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業への取り組み姿勢 この3点を総合的に判断し、学期ごとに100点満点で算出する。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	最新高等保健体育				
副教材							

学習目標	心身の発達や生活の特性に基づき適切な体力と精神の発達を高め、しかも現在及び将来の生活に活用できる運動能力や技能を身につける。運動を仲間と共に親しみ、協力し合い、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質や態度を身に付ける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	運動・スポーツの文化的特徴	・スポーツの意義や歴史、文化的特徴、現代スポーツをとりまくさまざまな問題について理解する。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動 体力を高める運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。ラジオ体操習得	☐ ☐ ☐
	水泳（クロール）	・手の動作と呼吸のタイミング、また、手と足の供応動作などの技能を修得し、競泳ができるようにする。 ・50mを一つの泳法で泳ぎ切る事ができる。計測	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	選択球技① バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	選択球技② バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐
	選択武道（柔道・剣道）	・礼儀・作法や基本技術の習得。試合をとおして相手を尊重する態度を育てる。相手の多彩な動きに対応しながら、素早く動いて攻防を展開することができる。	☐ ☐ ☐
	ダンス 創作ダンス	・表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で対極の動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現したり、皆で協力しイメージを強調した作品にまとめたりして踊る。	☐ ☐ ☐
	陸上競技 長距離走	・自己の能力に応じて、目標を設定し、長い距離をより速く走ることができる。 ・自ら意欲的に取り組み、体力・忍耐力を身に付ける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	陸上競技 長距離走	・自己の能力に応じて、目標を設定し、長い距離をより速く走ることができる。 ・自ら意欲的に取り組み、体力・忍耐力を身に付ける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	運動・スポーツの文化的特徴	・スポーツにおける社会的影響、スポーツ倫理を知り、社会をになうスポーツの役割について理解する。	☐ ☐ ☐
	選択球技③ バスケット・バレー ハンドボール サッカー・ソフトボール	・練習や試合の企画運営をグループで主体的に活動する力を身につける。チーム内での自己の役割を考え、自ら体力、技術力、精神力の向上に向け積極的に行動する。	☐ ☐ ☐

学習方法	日頃から体調の管理を行いながら、授業に出席し、積極的に自己の課題（体力面・技能的・精神面）を改善・向上させていく。
------	---

評価方法	各運動種目の運動技能・記録計測の実技テスト8割程度 出席・授業態度2割程度
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健	学 年	1	類 型	
単位数	1	教科書	最新高等学校保健体育				
副教材	最新高等保健体育ノート						

学習目標	我が国の疾病構造や社会の変化に対応して健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かして健康に関して個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりなどを行うことが重要であることを理解する。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	(1)健康の考え方と成り立ち (2)私たちの健康のすがた (3)健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり (4)生活習慣病とその予防 (5)食事と健康 (6)運動・休養と健康	・健康の考え方が変化していること、また、健康の成り立たせている要因を説明できる。 ・わが国の健康水準の変化と背景を説明できる。わが国の健康問題を上げることができる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を説明できる。 ・生活習慣病予防法を説明できる。 ・運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	(7)喫煙と健康 (8)飲酒と健康 (9)薬物乱用と健康 (10)感染症とその予防 (11)性感染症・エイズとその予防 (12)欲求と適応機制 (13)心身の相関とストレス (14)心の健康のために	・喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因であることを理解する。 ・薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。さらにそれらの対策は、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。 ・新たな感染症の問題について理解して説明できる。また、性感染症について説明できる。感染症及び性感染症のそれぞれの予防対策について、個人的及び社会的な対策を説明できる。 ・人間の欲求と適応規制には、様々な種類があることを理解する。 ・精神と身体には、密接な関連があり、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現をめざし努力していくことが重要であることを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	(15)交通事故の現状と要因 (16)交通事故を防ぐために (17)応急手当の意義とその基本 (18)日常的な応急手当 (19)心肺蘇生法の原理とおこない方	・交通事故の特徴を説明できる。 ・交通事故の発生に関係する要因を説明できる。 ・運転者に必要な資質と責任を説明できる。 ・安全な交通社会の対策を説明できる。 ・適切な応急手当の意義、方法を理解し、説明、実践ができる。 ・心肺蘇生法について方法や手順を理解し、説明、実践ができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	教科書の読み書き、板書の転記。図の読み取りや意見交換をしながら知識を深めていく。 保健ノートの演習を行い、内容をまとめる。
------	--

評価方法	定期考査、保健ノート記入や授業の取り組み状況で評価
------	---------------------------

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	音楽Ⅰ	学 年	1	類 型	選択者
単位数	2	教科書	MOUSA 1（教育芸術社）				
副教材	MUSIC NOTE（啓隆社）						

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を生涯にわたって愛好する心情や態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、豊かな情操を養う
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	校歌「道」【歌】 音楽視野の拡大 ・イタリア音楽【歌・鑑】 ・J-pop を通して 【歌・器・鑑・創】 器楽に挑戦 ・ヴァイオリン ・ギター【器・鑑】 西洋音楽史と 大作曲家に迫る【鑑】	・校歌を通して自覚と誇りを持ち、歴史と伝統に触れる ・曲に応じた発声、音色や強弱、特徴を生かした歌唱 ・歌詞の内容や楽曲背景の理解 ・楽器の構造、特徴の理解と正しい奏法を身に付ける ・楽器の音色を生かした演奏（表現） ・多様な音楽に対する文化的、歴史的背景の理解と よさや美しさ、面白さを味わう ・時代の変化に伴う音楽の変化 ・作曲家の生涯を、作品を辿りながら知る	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	合唱の楽しみ【歌】 ・「ふるさと」 ・「あなたに」 様々な舞台芸術【鑑】 ・オペラ、バレエ、ミュージカル ルールを守って楽しもう 日本伝統音楽と和楽体験 【器・鑑】	・混声合唱の響きを感じ取りながら、仲間と歌う喜びを味わう ・楽曲の理解と楽曲にふさわしい表現の工夫 ・作品の特徴や背景の理解 ・著作権について ・日本伝統音楽における楽器の音色と表現上の効果 ・和楽器の構造、特徴の理解と正しい奏法	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	アンサンブルの楽しみ ～課題研究～【歌・器・創】 卒業式に向けて【歌】 1年間のまとめ	・課題の特徴を生かしたアンサンブルや制作 ・作品への探求とステージマナー ・楽曲にふさわしい表現方法	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というもののまで学習していきたいと考えています。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間になしてください。
------	--

評価方法	・各学期の成績は確認テスト、実技テスト、課題、提出物、学習に取り組む態度を基に総合的に判断し、100点満点で評価します。 ・学年成績は100点法とともに5段階(5・4・3・2・1)で評価します。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	美術Ⅰ	学 年	1	類 型	選択者
単位数	2	教科書	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）				
副教材							

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	美術とはなにか	・美術の活動の基本である創造活動の大切さを再確認し、美術への興味・関心・意欲を高める。	☐ ☐ ☐
	色彩の魅力	・色の分類や知覚の仕組みなど、色彩についての知識を身に付けるとともに、社会の中での色彩の役割を知る。	☐ ☐ ☐
	イラストレーションの魅力（ポスタリゼーション）	・表現の方法を知り、色彩等を工夫しながら作品を作り上げる。 ・画材の特性を理解し、美しい平塗りができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	透視図法とイメージの空間	・ルネサンス時代の名画に使用された透視図法について効果を考えながら鑑賞する。	☐ ☐ ☐
	キャラクターデザイン	・透視図法のシステムや基本的な技法を習得する。	☐ ☐ ☐
	生物を描く	・目的や使われる場所を考えてキャラクターを考えることができる。 ・対象を良く観察し、色や形を忠実に再現することができる。 ・道具を安全に使用することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	暮らしの中の「使う」デザイン	・社会の中の美術について感じ取ることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	アニメーションの手法	・アニメーションの原理を知り、絵や立体の形・色の変化や動きの面白さを生かした表現をする。	☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め、見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	---

評価方法	①関心・意欲・態度 ②発想や構想の能力 ③創造的な技能 ④鑑賞の能力 の4つの観点より評価を行っていきます。題材によっては、2つの観点や3つの観点からのみ評価を行う場合もあります。
------	--

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	書道Ⅰ	学 年	1	類 型	選択者
単位数	2	教科書	書Ⅰ（光村図書）				
副教材							

学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	・硬筆 ・書道概論 ・書写の復習（楷書） ・楷書の学習【臨書】 ・九成宮醴泉銘（公募展作品） ・顔氏家廟碑 ・小テスト ・創作作品制作 ・硬筆テスト ・確認テスト	・鉛筆で基本的な字形を習得し丁寧に書く ・書道に関することについて理解する ・楷書の特徴を理解し、正しく運筆する 【臨書の到達目標】 ・作品が書かれた時代、経緯、筆者について理解する ・古典の特徴を理解したうえで、臨書する ・他者の作品を的確に評価し、相手に伝える ・校外に出品する作品を仕上げる ・単元のふりかえりが出来ているか ・自分が表現したいことを考え、作品にする ・練習したことをきちんと理解しているか ・1学期の復習がきちんとできているか	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学期	・書写の復習（行書） ・行書の学習【臨書】 ・蘭亭序 ・漢字仮名交じりの書 ・半紙作品 ・カレンダー制作 ・小テスト ・硬筆 ・硬筆テスト ・確認テスト	・行書の特徴を理解し、正しく運筆する 【臨書の到達目標】 ・作品が書かれた時代、経緯、筆者について理解する ・古典の特徴を理解したうえで、臨書する ・他者の作品を的確に評価し、相手に伝える ・漢字仮名交じりの書ができた経緯を理解する ・決められた詩文をどう表現するか（紙面構成、字形など）考えて書く ・自分の心に響く言葉（詩文）を選ぶ ・詩文をどう表現するのか（紙面構成、字形など）考えて書く ・単元のふりかえりが出来ているか ・鉛筆で基本的な字形を習得し丁寧に書く ・練習したことをきちんと理解しているか ・1学期の復習がきちんとできているか	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学期	・硬筆 ・仮名の学習 蓬萊切 ・小テスト ・硬筆テスト ・刻字、篆刻	・鉛筆で基本的な字形を習得し丁寧に書く ・仮名の成立について理解し、平仮名の字源を覚える ・仮名の筆遣いを習得する ・古典の特徴を理解したうえで、臨書する ・他者の作品を的確に評価し、相手に伝える ・単元のふりかえりが出来ているか ・練習したことをきちんと理解しているか ・印刀、彫刻刀など使用して作品制作をする	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

学習方法	毎時間、真剣にそして積極的に取り組んでください。創作作品を制作する際は、自分を見つめ、今の自分を表現できるようにしましょう。持ち帰りの課題があることがあります。提出期日を守ってください。使用する道具を大切に扱いましょう。
------	--

評価方法	・各学期の成績は、書道・硬筆作品、ワークシート、小テスト、硬筆テスト、確認テスト、課題提出物、授業への取り組む様子を基に総合的に判断し100点満点で評価します。 ・学年成績は、100点法とともに5段階（5・4・3・2・1）で評価します。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	コミュニケーション英語Ⅰ	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	ELEMENTⅠ(啓林館)				
副教材	DataBase4500						

学習目標		・様々な言語活動を通してまとまった英文の内容理解・構文理解を深め、自己表現活動につなげる。 ・ICTを活用して授業内容理解の助けとし、学習内容の活用能力や表現能力を高める。					
学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)			到達度自己評価 A B C		
1 学 期	L1 Rakugo in English!	・レッスン中の語彙・表現の理解。			☐ ☐ ☐		
	L2 Christian the Lion	・重要構文を含む文の理解。			☐ ☐ ☐		
	L3 Predictions of the Future	・本文のアウトラインの理解。			☐ ☐ ☐		
	L4 Twice Bombed, Twice Survived	・段落やパートごとの要点の理解。			☐ ☐ ☐		
		・レッスン全体のリテリングができる。			☐ ☐ ☐		
2 学 期		・レッスンに関連したトピックで即興型ディベートができる。			☐ ☐ ☐		
	L5 Umami	・レッスン中の語彙・表現の理解。			☐ ☐ ☐		
	L6 The Story of PlayPumps	・重要構文を含む文の理解。			☐ ☐ ☐		
	L7 Biomimetics	・本文のアウトラインの理解。			☐ ☐ ☐		
	L8 The Power of Presentation	・段落やパートごとの要点の理解。			☐ ☐ ☐		
3 学 期		・レッスン全体のリテリングができる。			☐ ☐ ☐		
	L9 Bopsy	・レッスン中の語彙・表現の理解。			☐ ☐ ☐		
	L10 Playing the Enemy	・重要構文を含む文の理解。			☐ ☐ ☐		
	Further Reading 1, 2, 3	・本文のアウトラインの理解。			☐ ☐ ☐		
		・段落やパートごとの要点の理解。			☐ ☐ ☐		
		・レッスン全体のリテリングができる。			☐ ☐ ☐		
		・レッスンに関連したトピックで即興型ディベートができる。			☐ ☐ ☐		

学習方法	・該当レッスンの読解ワークシートに各生徒が予習で取り組む。 ・予習した内容をベースにして授業で理解を深める。 ・即興的な自己表現も授業中に行う。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・パフォーマンステスト ※上記の項目を総合的に評価する。

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	英語表現 I	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	English Expression I Advanced be (IIZUNA SHOTEN)				
副教材	総合英語 be Voyage to English Grammar 3 rd Edition (IIZUNA SHOTEN)						

学習目標	基本的な例文や構文知識をもとに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝える能力を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	L1・2 時制	・学んだ文法・表現を使って、文を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L3・4 完了形	・自分や与えられた課題について文章を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L5・6・7 助動詞	・与えられた状況に置いて適切に話し、伝えることができる。	☐ ☐ ☐
	L8・9 受動態	・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 ・自らの意見を適切な表現を用いて伝えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	L10・11・12 不定詞	・学んだ文法・表現を使って、文を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L13・14 動名詞	・自分や与えられた課題について文章を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L15・16 分詞	・与えられた状況において適切に話し、伝えることができる。	☐ ☐ ☐
	L17・18・19 関係詞	・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 ・自らの意見を適切な表現を用いて伝えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	L20・21 比較	・学んだ文法・表現を使って、文を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L22・23 仮定法	・自分や与えられた課題について文章を書くことができる。	☐ ☐ ☐
	L24・25 接続詞	・与えられた状況において適切に話し、伝えることができる。 ・パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 ・自らの意見を適切な表現を用いて伝えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	該当レッスンの演習問題に各生徒が予習で取り組む。 予習した内容をベースにして授業で解説を行う。 即興的な自己表現も授業中に行う。
------	--

評価方法	・定期考査 ・小テスト ・予習・提出物の状況 ・エッセイライティング(自由作文) ・パフォーマンステスト ※上記の項目を総合的に評価する。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	家庭	科 目	家庭基礎	学 年	1 学年	類 型	
単位数	2	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造				
副教材	令和3年度家庭科学学習ノート						

学習目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
------	--

学 期	学 習 内 容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学期	「家庭基礎」の学習の進め方 第1章1～6 自分らしい人生をつくる	・自分らしく生きるために、目標を持ち、生活課題に対応した適切な意思決定を自分で行うことの大切さや考え方を理解する。	☐ ☐ ☐
	第6章5 布を用いた生活の知恵 ○実習「基礎縫い」 「刺し子のランチョンマット」	・直線ミシン、並縫い、まつり縫い、ボタン付け、スナップ付けを習得する。また技術を活用し、生活に役立つものを製作する。	☐ ☐ ☐
	第8章4～6 経済生活を営む	・契約や消費者信用、多重債務問題などに対し、消費者として適切な判断ができるようになる。	☐ ☐ ☐
	第2章 子どもと共に育つ	・子どもの発達を支えるための親の役割や子育てを支援する環境を理解する。	☐ ☐ ☐
	○実習「食物技術検定4級相当の力をつける」 ○ホームプロジェクトの実施計画	・調理の基礎技術を身に付ける。 ・生活の課題を見出し、その解決を目指す、ホームプロジェクトに取り組む。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	○ホームプロジェクト発表	・生活課題を見出し、その解決の手だてに取り組み、成果と課題を発表する。	☐ ☐ ☐
	第3章 高齢社会を生きる	・高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 共に生き、共に支える	・共生社会の重要性を理解する。	☐ ☐ ☐
	第5章 食生活をつくる ○実習「調理実習・和洋中、 自立のための料理教室」	・健康で安全な食生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	☐ ☐ ☐
	第6章 衣生活	・被服管理に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	☐ ☐ ☐
3 学期	第7章 住生活	・安全で環境に配慮した住生活が営めるようになる。	☐ ☐ ☐
	第8章 経済生活を営む 第9章 生活を設計する	・生涯を見通した生活における経済の管理や自己の生活について主体的に考えることができるようになる。	☐ ☐ ☐
	○学校家庭クラブ活動 基礎縫いを利用したティッシュケース作り 雑巾作り	・環境負荷の少ない衣食住の生活の工夫を考える。	☐ ☐ ☐

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにする。 各課題においては基本的には学校内で行う課題の提出については期限内に提出する。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ協力して進める。
------	---

評価方法	各学期の期末考査において筆記試験を100満点で作成し、50～60点に換算し、その学期の提出物（授業における学習プリント、作品、ホームプロジェクト、学習態度等）を加え、100点満点とする。学年成績は1学期から3学期までの評点を平均し、その評点によって5段階で評価する。
------	---

令和3年度 八代高等学校シラバス

教 科	情報	科 目	社会と情報	学 年	1 年	類 型	
単位数	2	教科書	高等学校社会と情報（数研出版）				
副教材							

学習目標	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得するとともに、情報を主体的に活用し、情報化社会に積極的に参画できる態度を育成する。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	・情報とはなにか ・表現の工夫 (主にここではワープロソフトについて) ・情報社会の光と影	・情報が持つ意味や働きについて理解できたか ・ワープロソフトの基礎・基本が身についたか ・多様な形態の情報を適切に収集・表現することができたか ・情報化社会（ネット社会）が及ぼす影響について理解できたか	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	・デジタルの表現について ・表現の工夫 (主にここでは表計算ソフトについて) ・情報セキュリティについて	・情報量の概念について理解できたか ・進数計算について理解できたか ・画像、音声、動画データのデジタルの概念について理解できたか ・表計算ソフトの基礎・基本が身についたか ・情報化社会の危険性を認識させるとともに、情報セキュリティに関する知識が身についたか	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	・知的財産権について ・ネットワークとコミュニケーションについて ・情報、通信技術の発達について ・問題解決のプロセス、データの分析について	・著作権など知的財産権を保護する理由を理解することができたか ・ネットワークがどのように形成され、プロトコルやIPアドレス、ドメイン等が理解できたか ・情報通信技術の発達やIoTの進歩により今後社会がどのように変化していくか意識することができたか ・目的に応じたデータ分析を行うことができたか・問題解決やその方法について関心を持ち、主体的に問題解決を図ろうとできたか	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	パソコンを使った実習形態を主体としながら授業を展開していくが、それとともに座学での説明も随時行う。また情報モラルに関する部分も適宜説明を行う。
------	---

評価方法	各学期の成績は100点満点で評価する。ペーパーテストは各学期1回ずつ行い、ペーパーテストの評価の配分は7割～8割程度とする。その他提出物（作品・レポート）は2割程度とし、残りは授業への取り組み方・課題の提出状況などにあてる。学年成績は1学期から3学期までの評点を平均し、5段階で評価する。
------	--